

1. 射場側会場設営 注) 進行主任の指示で進行、招集、記録、計時係が担当する。

1) 脇正面

- ・机を2台ならべて、白いカバーを掛ける。
- ・いすは、机に6脚、後ろに6脚程度並べる。注) 大会により正面席のいすの数は異なることもある。
- ・冬場は、防寒対策として電気マット、ストーブを置く。いすには座布団と膝掛けを用意する。

2) 射場内

- ・放送システムの電源を入れる。マイクを2個以上準備する。ワイヤレスアンプを射場内に設置する。
マイクは、開会式で2個使い、競技中は射場と的前に各1個ずつ置く。
- ・トランシーバは射場(4台)と的前(3台)で計7台使う。他に1台は競技委員長が持つ。
- ・矢渡の射手、介添を黒板に書いておく。進行主任の役割とする。
- ・立ち番札は、床の印に合わせて置いていく。注) 矢渡が終わった後に置く。
 - ・5人立2射場・・・白丸印
 - ・3人立3射場・・・1-1,1-2,1-2,2-1,2-2,2-3,3-1,3-2,3-3の印
- ・黒板に「今の立」「次の立」の看板をかける。
- ・黒板に競技種別の札を用意しておく。
男子3段以下、男子4段以上、女子3段以下、女子4段以上、称号の順

3) 記録席

- ・机を2台ならべる。
- ・いすは記録係x5脚、進行係x3脚を並べる。
注) 大会により、3射場、4射場の場合や、計時係をもうける場合もありその時のいすの数は異なる。
- ・鉛筆、消しゴム、記録用紙、確認表示板を準備する。注) 和室の棚に置いてある。
- ・冬場は、防寒対策として電気マット、膝掛けを用意する。

4) 控席

- ・第1控、第2控分のいすを準備する。
 - ・5人立2射場・・・第1控5x2+第2控5x2 計20脚
- ・競技の間合いの注意文言の表示を大前の控あたりに掲示する。(必要に応じて)

5) 替弦置き

- ・入場口前の廊下に置き、取り忘れた弦巻を置いておくための机も用意する。

6) 控室

- ・近的競技の場合遠的射場、遠的競技の場合近的射場になる。
- ・弓立ては、道場中央に2列に並べる。その間隔は70cmくらいにして道場を広く使う。

7) 巻藁

- ・遠的射場を控室として使う場合、原則廊下側の2台を使用禁止とし、矢道側2台を使用許可する。
- ・矢立や鏡で使用しない巻藁と区別する。
- ・遠的射場の巻藁を全数禁止にした時は、近的射場安土裏に2台設置する。(的前係の役割)

8) 立順表の掲示

- ・受付終了(原則9:20)後、速やかに立順を決めて、演武(矢渡)終了までに掲示しておく。
- ・種別毎に立順を決めて、立順番号を記載する。(立順表に通しページも付ける)
注) 全てのコピーに立順番号を書いておくこと。
- ・男子3段以下、女子3段以下、男子4段以上、女子4段以上、称号の順に並べて掲示する。
掲示場所は、玄関正面の白版にする
- ・受付終了後に来た場合、進行主任の判断によるが、追加する場合には遅れてきた本人にいかにか大変かを認識させる必要がある。

2. 安土側設営

注) 的前主任の指示で的前係が担当する。

1) 幕張り

- ・幕の中央にある「輪」を中心と書かれたフックにかける。
- ・中心から左右に向けて張りを保ちながらフックにかけていく。
- ・終端は、「輪」を壁のフックにかけて折り返すようにしてフックにかける。注) 結ばなくても良い。
- ・中心の房は、中心の「輪」内を通して、房の下と幕の下の高さを揃える高さにする。

2) 的位置

- ・道糸を安土両側にあるガイドの釘にかけて高さを合わせる。
- ・掲示されているデータに基づいて大前からの位置を決めていく。
このときの付けずには穴に印を付ける。ごう串2本で正しく付けられる位置を示す。
- ・矢渡の的は、中心にある房の真下になるように置く。高さは道糸に合わせる。
- ・的かけは、ごう串を2本使うこと。(倒れないために)

	的間隔	射場間隔
5人x2射場	155cm	220cm
3人x3射場	160cm	250cm
3人x4射場	120cm	160cm

3) 矢道

- ・遠近競射にて、矢を渡すための橋を射場中心の外側の矢道に置く。
注) 橋は、看的小屋に置いてある。

4) 的前役員席

- ・的前審判用 机x1台、いすx2脚
- ・電光表示板用 いすx2脚
- ・第1射場(外)はベンチのままだが、日よけのテントがある。